

## 〈私の報告〉

# 史跡見学会・たんけんミュージアム「旧歩兵第四連隊兵舎と榴ヶ岡周辺の戦争遺跡を歩く」の報告

佐藤 雅也

はじめに

令和六（二〇二四）年度の仙台郷土研究会主催の史跡見学会・たんけんミュージアムについて報告する。日時は九月一四日午後一時三〇分から三時、会場は仙台市歴史民俗資料館（以下当館と略す）と仙台市榴岡公園で、事業名称は「旧歩兵第四連隊兵舎（築一五〇年）と榴ヶ岡周辺の戦争遺跡を歩く」で参加者は一三名であった。当館は今年で建物築一五〇年、開館四五周年を迎えることからこの事業が企画された。

## 一、開館四五周年・建物築一五〇年

当館の建物は旧陸軍歩兵第四連隊の兵舎であり、明治七年（一八七四）九月完成とされ、明治八年（一八七五）五月には歩兵第四連隊が創設され、明治八年九月九日に軍旗が授与された。

歩兵第四連隊の兵営跡地は、現在の仙台市榴岡公園（面積一〇・八ヘクタール）の八割近くの面積と、現在の仙台第三合同庁舎・東北防衛局・第二法務合同庁舎・同分庁舎、サーパス榴ヶ岡公園マンションなどの敷地や道路部分に相当する。榴岡公園西側一部の桜並木付近は元禄時代からの花見の名所地であり、明治以降の躑躅ヶ岡、明治三

五年（一九〇二）宮城県告示の躑躅ヶ岡公園（二・三七七ヘクタール）の区域である。大正一三年（一九二四）には公園内の枝垂れ桜が国の名勝に指定され（昭和四三年（一九六八）に桜が枯れ国の名勝指定が解除されるが樹齢三〇〇年の元禄桜が数本ある）、昭和一七年（一九四二）には仙台市榴岡公園に移管された。戦前までは公園地を躑躅ヶ岡や榴ヶ岡と表記し、兵営地を榴岡と表記する場合が一般的だった。

歩兵第四連隊は仙台・宮城の郷土部隊であり、明治一〇年（一八七七）西南戦争、明治一七年（一八八四）甲申事変、明治二七年（一八九四）から明治二九年（一八九六）の日清戦争と講和条約後の台湾戦争、明治三七年・三八年（一九〇四・一九〇五）の日露戦争、第一次世界大戦後のシベリア出兵時に起きた尼港事件後の守備隊、昭和六年（一九三一）九月一八日勃発の満洲事変、昭和一二年（一九三七）七月七日開戦の日中戦争、第二次世界大戦とほとんどの近代の戦争に参戦した。

第二次世界大戦後の旧歩兵第四連隊は、昭和二〇年（一九四五）九月一六日から昭和三二年（一九五五）まで米軍が駐留し、米軍キャンプ地（キャンプ・ファウラー）となったが、昭和三一年六月に榴岡キャンプは返還され、昭和三一年一月に東北管区警察学校が開設、昭和五〇年（一九七五）まで使用した。また北東側一部の旧兵舎は東北学院榴ヶ岡高校の敷地・校舎となり、理数科は昭和五〇年まで使用した。

昭和五一年（一九七六）十一月には榴岡公園拡張整備事業が始まり、昭和五二年（一九七七）四月に仙台市制八十八周年記念事業および「天皇陛下御在位五〇周年記念公園」に指定された。公園整備にともない旧兵舎の調査が行われ（佐藤巧監修『歩兵第四連隊の兵舎―その歴史と保存―』、一九八一年）、旧兵舎のうち最も古くて状態のよい一棟だけを移築保存し、残りは解体された。昭和五二年二月二八日に旧歩兵第四連隊第一一中隊の建物を第四中隊跡地に移築した。

た。この碑は、明治一七年（一八八四）一二月甲申事変で日本最初の海外駐留軍として朝鮮の漢城（ソウル）の日本公使館護衛にあたり戦没者、負傷者をだした歩兵第四連隊の軍功を顕彰するために仙台鎮台の佐久間左馬太などによって建立されたものである。

次に枝垂れ桜の桜並木を通り、旧四連隊営門付近に進む、旧営門の外側には、昭和五〇年（一九七五）仙台市保存樹木に指定された樹齢約三〇〇年の元禄桜がある。この近くの旧営門跡付近の昭和三五年（一九六〇）九月九日建立「歩兵第四連隊之跡」碑、「陸軍省所轄地」標柱を見学した。碑は旧歩兵第四連隊関係者の重陽会と有志によって建立されたもので、碑文の「至誠無息」は旧第二師団長で旧陸軍大将の岡村寧治、「歩兵第四連隊之跡」は仙台生まれの旧陸軍大将の今村均によるものである。標柱は旧陸軍歩兵第四連隊兵営と躰ヶ岡公園の境界に建てられたもので、この標柱より西側が旧躰ヶ岡公園、東側が旧歩兵第四連

隊兵営だった。

次に旧営門跡を通り、衛兵舎・営倉跡、面会所跡、旧第一中隊・第二中隊・第三中隊の兵舎跡を通り、当館建物北側をまわり、公園北東角の階段を降り、仙台市立宮城野中学校が見えるところに集まった。宮城野中学校は旧仙台陸軍地方幼年学校跡の一部であり、日清戦争後の軍備増強のため東京に陸軍中央幼年学校（大正九年に陸軍士官学校予科）、東京・仙台・名古屋・大阪・広島・熊本に陸軍地方幼年学校（大正九年に陸軍幼年学校）が設置され、仙台では明治三〇年（一八九七）九月、榴岡に開校した。採用生徒数は各校五〇名、年齢は一三歳〜一五歳、修学期間は三年だった。第一次世界大戦後の軍縮により大正一三年（一九二四）四月に廃校となるが、昭和一二年（一九三七）四月に広島陸軍幼年学校内で復活し、仙台市三神峯に新校舎が完成すると昭和一三年（一九三八）に開校した（現在の東北大学原子核理学研究施設・先端量子ビーム科学研究センター三神峯事

建物は歴史民俗資料館として利用されることになった。昭和五三年（一九七八）六月一六日には仙台市有形文化財（建造物）に指定され、明治三七年（一九〇四）当時の外観構造に復元保存された。昭和五四年（一九七九）十一月三日に仙台市歴史民俗資料館が開館、榴岡公園一部開園式と当館開館式が同時に行われた。令和五年（二〇二三）三月二四日には新たに宮城県有形文化財（建造物）に指定され、令和六年（二〇二四）には開館四五周年、建物築一五〇年を迎えた。

史跡見学会の当日は、仙台郷土研究会の渡邊洋一会長の挨拶後、建物の沿革と榴ヶ岡周辺の戦争遺跡などについて説明したうえで当館を出発した。

## 二、榴ヶ岡周辺の戦争遺跡を歩く

当館の場所は旧歩兵第四連隊第四中隊跡だが（標高約三〇m）、かつては当館東側の坂を降りると旧東門跡がありここから宮城野原練兵場（現在の宮城野原競技場、宮城県野球場、JR貨物駅構

内など）に向かったという。当館を出発し、芝生広場（旧営庭跡）前を通り、野外音楽堂（旧第五中隊跡）、環境大気測定局施設付近（旧弾薬庫跡）、公園管理事務所・緑地協会と駐車場（旧厩・馬糧庫・馬水槽跡）を下に眺め、旧第九中隊跡、第十中隊跡の裏側付近を通り、階段中腹まで下りて、昭和五二年（一九七七）三月二五日建立の「梅の園碑（石原莞爾を偲ぶ碑）」を見学した。碑文には、石原莞爾が昭和八年（一九三三）八月から二年間、歩兵第四連隊長として赴任し、連隊諸兵の栄養源、非常食用にと梅二〇〇本を植えたこと、旧四連隊跡地が仙台市民の公園として開放されたことを記念し碑を建立したとある。これに関連して付近の斜面には梅の木が植えられている。

次に旧レストハウス建物付近（旧第一一中隊跡）の裏側、スケートパーク（旧将校集会所跡）の脇を通り、旧兵営地西側に隣接する花見広場（旧躰躰ヶ岡公園）の入口付近にある明治一八年（一八八五）一二月建立「朝鮮戦役記念の碑」を見学し

業所、仙台市三神峯公園)。このため宮城野中学校敷地内には、大正一三年（一九二四）三月「仙台陸軍地方幼年学校の記念碑」、昭和一四年（一九三九）四月一日「仙台陸軍地方幼年学校址記念碑」（揮毫は仙台幼年学校一期生の多田駿〔旧仙台藩士の子、旧陸軍大将〕）などが建立された。

### おわりに

以上の榴ヶ岡周辺の戦争遺跡を見学後、当館に戻り、館内の建物や、旧四連隊コーナー等の内務班を再現した展示、戦時資料などを見学し、現地解散した。

佐藤理事による解説の様子



梅園の碑の解説



朝鮮戦役記念の碑の解説